

中播磨新地域ビジョン検討委員会 基礎資料 1

兵庫を取り巻く環境変化

1

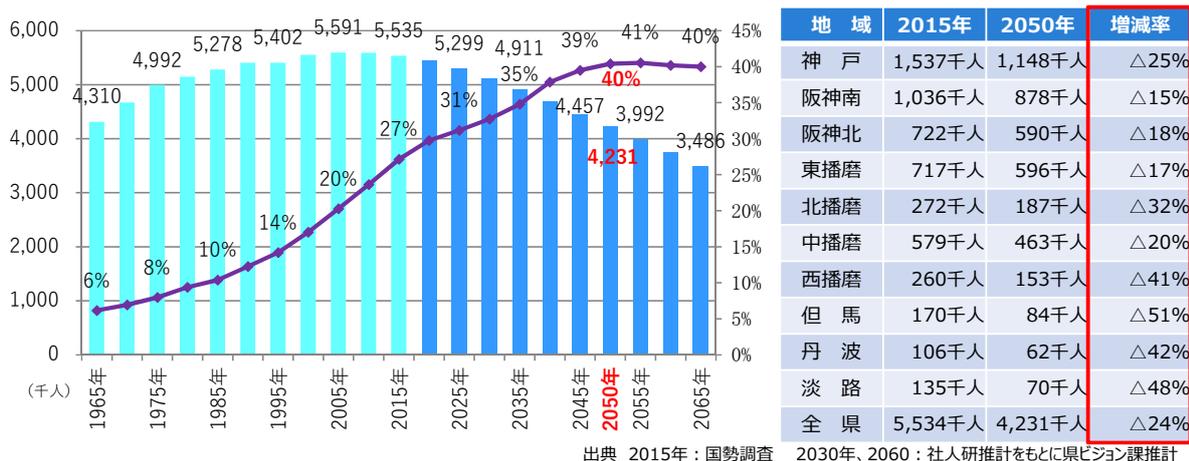
人口減少と少子高齢化（1）

人口減少と少子・高齢化が加速

- ・ 2015～2050年で24%・約130万人の**人口が減少** ※現在の神戸市人口150万人とおおよそ同規模が減少
地方では、減少率が50%を超える地域もあるなど、**都市部と地方の間で偏在化も**
- ・ 65歳以上の人口も2050年には40%に。介護需要も増加

◆ 人口の将来推計

1965～2065年の「人口と65歳以上人口比率」の推移（2020年以降は推計）



2

人口減少と少子高齢化（2）

中播磨地域でも進行する人口減少と少子高齢化

中播磨地域の人口推計

※ 14才以下：年少人口、15～64才：生産年齢人口、65才以上：高齢者人口

	2015年				2050年				増減率
	人口 (千人)	年齢別シェア			人口 (千人)	年齢別シェア			
		14以下	15～64	65以上		14以下	15～64	65以上	
中播磨	579	14%	60%	26%	463	11%	53%	35%	△20%
姫路市	536	14%	61%	25%	438	12%	54%	35%	△18%
神河町	11	12%	54%	34%	5	6%	39%	55%	△55%
市川町	12	11%	56%	33%	5	6%	39%	55%	△58%
福崎町	20	14%	59%	27%	15	11%	51%	38%	△26%
全 県	5,535	13%	60%	27%	4,231	10%	50%	40%	△24%

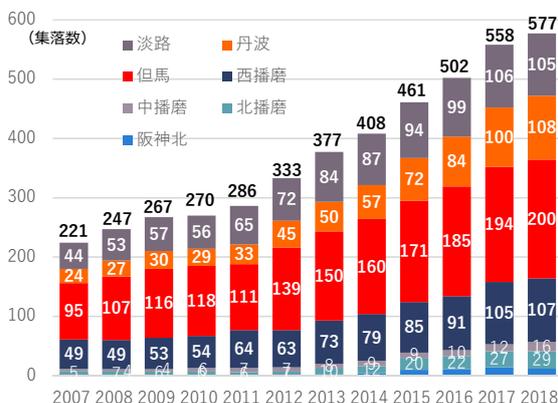
3

人口減少と少子高齢化（3）

地域構造が変化し、自治機能の維持が困難な地区も

- ・ 県内の小規模集落数は継続して増加。2018現在、577集落と10年間で約2.5倍に

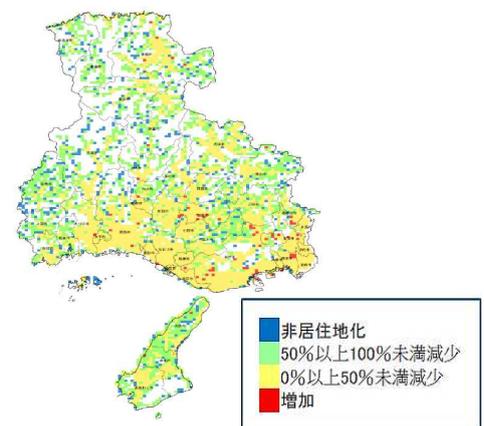
◆ 小規模集落数の推移（県）



※小規模集落：世帯数50戸以下で高齢化率（65歳以上比率）40%以上の集落（市街地及びその周辺、駅周辺などを除く）

出典 地域振興課調べ

◆ 将来人口 約1km四方別 (2010年～2050年の増減)



出典 国土交通省「国土のグランドデザイン2050」(2014)

4

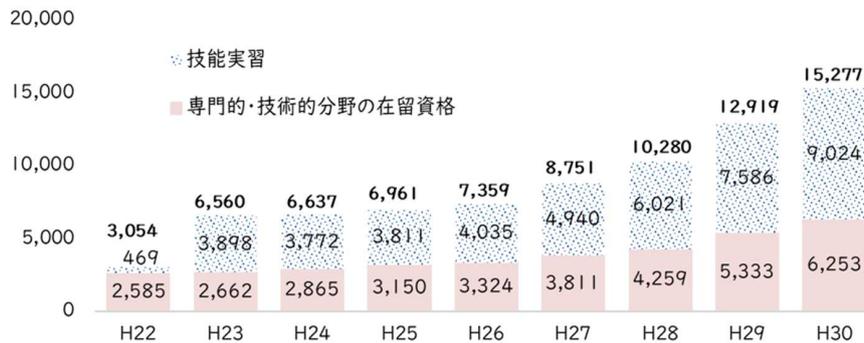
人口減少と少子高齢化（４）

一方で外国人が増加、とりわけ外国人労働者が増加

◆ 兵庫県推計人口の社会増減の推移

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
日本人	+827	▲1,497	▲4,502	▲5,951	▲7,966	▲7,397	▲6,914	▲6,725	▲5,561
外国人	▲2,110	▲2,950	+312	▲1,048	+1,286	+4005	+4,942	+5,501	+6,949
計	▲1,283	▲4,447	▲4,190	▲6,999	▲6,680	▲3,392	▲1,972	▲1,224	+1,338

◆ 兵庫県外国人労働者の推移



(出典:厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況について」)

5

新技術の浸透

新技術の活用が豊かな社会を創る鍵に

- ・ AI、IoT、ロボットなどの**革新技術**は社会を一変させるインパクト
- ・ **コロナ禍**でテレワーク、オンライン授業、オンライン診療などの活用が拡大

	技術革新の主な事例	
暮らし	○キャッシュレス決済、 ○デジタル通貨 ○AI家電、自動翻訳	○オンライン授業 ○防犯カメラのAI解析
移動	○自動運転 ○コネクティッドカー	○ドローン配送 ○トラックの隊列走行
健康	○オンライン診療 ○ビッグデータによる健康管理	○介護ロボット ○AIを用いた診断支援
産業	○省人化・無人化工場 ○消費者データによる需要予測	○テレワーク、Web会議 ○スマート農業

播磨科学公園都市で自動運転公道実証した遠隔自動運転車両



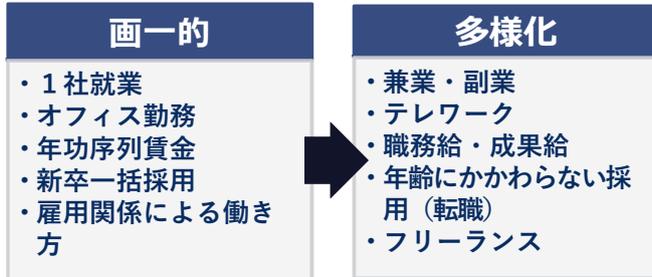
6

人生100年時代の到来

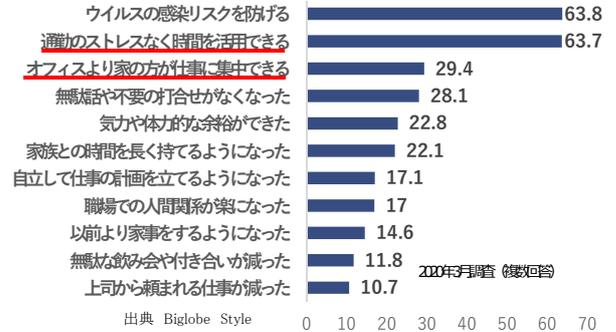
ライフコースの多様化、脱「定年退職」

- ・テレワーク、兼業・副業など働き方の選択肢が拡大。働き続けたい人の増加
- ・「教育」「勤労」「引退」の3ステージの人生から、いつでも再チャレンジできるマルチステージの人生に

◆働き方の多様化



◆在宅勤務して良かったこと



◆働き続けたい年齢

65歳を超えて働きたい：65.9%



出典 内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(2013)

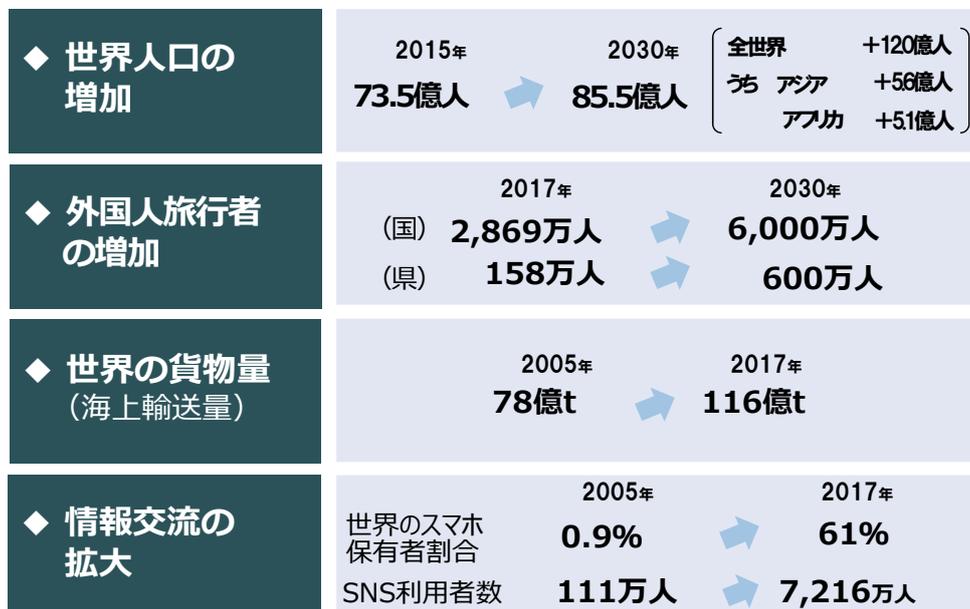


テレワーク

世界的な交流の拡大

世界を行き交う人・モノ・情報の量とスピードが飛躍的に拡大

- ・世界人口の拡大と所得の増加に伴って外国人旅行者が増加
- ・情報コミュニケーション基盤の進歩が、瞬時の情報共有を実現
- ・基幹道路ネットワークの整備や、関西3空港の一体運営が進展



リスクを正しく捉え未来を創る

- ・地震、風水害、感染症など、**高まるリスク**への危機管理の強化が必要
- ・地球温暖化の進行に対し、地域から持続可能な**環境社会を先導**

◆ 南海トラフ地震

・地震の規模 M8～9クラス ・発生確率 30年以内に70%～80%

◆ 多発する豪雨

・1時間に80mm以上の降水発生回数(全国・年平均)

1976～1985年 2006～2015年

10.7回 → 18.0回



丹波豪雨による被害 出典 国土地理院ホームページ

◆ 新感染症のパンデミック

- ・2003年 : SARS (重症急性呼吸器症候群)
- ・2009年 : 新型インフルエンザ
- ・2020年 : 新型コロナウイルス

◆ パリ協定の発効

- ・パリ協定のもと、温室効果ガスの排出量を2030年度までに26.5%削減
- ・温室効果ガス排出量 (県)

2013年 75,182kt-co2

2030年 55,248kt-co2 (△26.5%)



液化水素運搬船

◆ 水素社会の到来 【2030年頃の普及イメージ・国ロードマップ】

- ・海外からの未利用エネ由来水素の製造、輸送・貯蔵の本格化